27　数ウ密度補正Ⅱに用いる密度は、次の算式ア、算式イ、算式ウ及び算式エにより算定した密度の端数（小数点以下三位未満の端数があるときは、その端数を四捨五入する。）とする。

算式ア

$$\frac{1}{A}\times\{(0.5+0.5\times\alpha)\times B\times 0.583+(0.5+0.5\times\beta)\times C\times 0.469\}$$

算式アの符号

A　測定単位の数値

B　33万円以下段階保険料軽減者数に1.73を乗じて得た数に保険料軽減者数計から33万円以下段階保険料軽減者数を控除して得た数に0.78を乗じて得た数を加えて得た数（整数未満の端数があるときは、その端数を四捨五入する。）

C　33万円以下段階保険料軽減世帯数に1.73を乗じて得た数に保険料軽減世帯数計から33万円以下段階保険料軽減世帯数を控除して得た数に0.73を乗じて得た数を加えて得た数（整数未満の端数があるときは、その端数を四捨五入する。）

α　次の算式によつて算定した率（小数点以下３位未満の端数があるときは、その端数を四捨五入する。）

$$\frac{a\times 1{,}000}{b}\times\frac{1}{9{,}265}$$

$\frac{a\times 1{,}000}{b}$に整数未満の端数があるときは、その端数を四捨五入する。

a　減額した被保険者均等割額計

b　前記Bに同じ。

β　次の算式によつて算定した率（小数点以下３位未満の端数があるときは、その端数を四捨五入する。）

$$\frac{c\times 1{,}000}{d}\times\frac{1}{7{,}452}$$

$\frac{c\times 1{,}000}{d}$に整数未満の端数があるときは、その端数を四捨五入する。

c　減額した世帯別平等割額計

d　前記Cに同じ。

算式イ

$$\frac{B\times 0.354}{A}$$

算式イの符号

A　測定単位の数値

B　33万円以下段階保険料軽減者数に0.99を乗じて得た数に保険料軽減者数計から33万円以下段階保険料軽減者数を控除して得た数に0.49を乗じて得た数を加えて得た数（整数未満の端数があるときは、その端数を四捨五入する。）

算式ウ

$$\frac{B\times 0.595}{A}$$

算式ウの符号

A　測定単位の数値

B　市町村税課税状況調（国保関係）第１表表側「加入者の状況」のうち「被保険者数(F)」、表頭「平成23年３月31日現在」欄の数（以下「一般被保険者数」という。）

算式エ

$$\frac{1}{A}\times\left(\frac{B\times C\times 0.26\times 0.8+D\times 0.08\times 0.8+31\times E\times F}{6{,}460}\times 0.04\times 0.8\right)$$

算式エの符号

A　測定単位の数値

B　次の算式により算定した数（小数点以下３位未満の端数があるときは、その端数を四捨五入する。）

算式

$$\frac{(0.5+0.5\times\alpha)\times B'\times 13{,}229+(0.5+0.5\times\beta)\times C'}{1{,}000}\times 10{,}069$$

算式の符号

α　算式アの符号αに同じ。

B’　算式アの符号Bに同じ。

β　算式アの符号βに同じ。

C’　算式アの符号Cに同じ。

C　次の算式により算定した数

算式

γが0.50以上のとき　$\frac{\gamma}{0.50}$

γが0.44以上0.50未満のとき　$\frac{\gamma-0.44}{0.10}$

γが0.44未満のとき　0

算式の符号

$\gamma=\frac{\text{保険料軽減世帯数計}}{\text{一般被保険者世帯等数}}$

D　次の算式により算定したａとｂとの小さい方の数

算式

$$a=2{,}008\times\frac{(c-1{,}154.9)\times d}{100{,}000}$$

ｂ＝（総務大臣が調査した実績給付費の額）－{（総務大臣が調査した基準給付費の額）と（164,000×一般被保険者数）との大きい方の数}

算式の符号

c　10万人当たり病床数と医療圏10万人当たり病床数との大きい方の数

d　平成23年３月31日現在の住民基本台帳人口